

産科婦人科学

【目的】

一生を通じての女性の健康を主として母性という概念に立つて行うとともに、これに関連する疾患の予防・治療を行うのが産婦人科医療であり、その学問的基盤になるのが産科婦人科学である。これは主に周産期医学、内分泌・生殖医学、婦人科腫瘍学、女性医学から構成されている。

本実習により、各領域の知識と技術を学び、臨床医として産婦人科疾患への理解を深めることを目指す。

到達目標

外来実習：外来診療を適切に実施できる能力を養う。

- 1) 患者の心理を十分に理解して医療面接を行うことができる。
- 2) 産婦人科一般の診察法に加え、妊婦健診の診察法を学ぶとともに、超音波検査による胎児の発育や正常妊娠と異常妊娠の判別をつけることができる。
- 3) 問診・身体所見に応じて、診断と治療の計画を立てることができる。
- 4) 産婦人科外来検査法について、適応や検査法を説明し、結果を解釈できる。

病棟実習：主治医と共に行動し、入院患者の病態、心理を正確に把握し、適切な医療が行えるように、基礎知識と技術を養う。

- 1) 個々の患者に対して、適切な検査と治療の計画を立てることができる。
- 2) 担当した患者の病状を理解し、QOLも考慮した全人的な治療計画を立てることができる。
- 3) 分娩にあたり、陣痛に伴う母体・胎児の監視から正常分娩経過を理解し、分娩介助、新生児取り扱いを学ぶとともに、分娩経過の異常を判断し、必要な介入計画を立てることができる。
- 4) 状況により夜間も待機し、産婦人科の救急医療を体験し、限られた時間の中で患者の治療計画を立てることができる。

手術室実習：産婦人科の手術手技の実際について理解を深める。

- 1) 産婦人科に特有な手術（帝王切開術、内視鏡手術、腔式手術、癌の手術など）を理解し、患者の状況にあった手術術式を選択できる。
- 2) 手術に参加し、手術の基本的な手技を習得する。
- 3) 骨盤内臓器の解剖学、生理学から産婦人科疾患の病態を理解し、術前・術後の管理計画を立てることができる。

実習の内容

- 1) 第1週の月曜日の午前中にオリエンテーションを行う。実習中に学んだこと、体験したことは、毎日漏らさずにポートフォリオに記入すること。また、実習中に調べた知識や検索した文献なども、すべて綴じ込んでいくこと。
- 2) 第1週の月曜日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動をともにすること。指導医の受け持つ患者を一緒に診察し、主治医団の一員として入院から退院までの医療に参加すること。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、その後に行われた検査の結果や今後の治療方針など、通常は主治医がカルテに記載すべき事柄を、学生用のカルテに記載すること。
- 4) カンファレンスで指導医の指定した症例について、主治医の代わりに症例提示を行うこと。そのために、既定の時間内で発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。
- 5) 少なくとも1～2症例の分娩を第1期から分娩終了まで経過を追って、分娩経過表（パルトグラム）を完成させること。
- 6) 実習終了時には、課題（パルトグラムなど）を提示すること。

週間スケジュール（学内）

手術日	月（AM）、火（AM, PM）、水（AM）、木（AM, PM）
カンファレンス	毎朝8時15分（月・金）または30分（火・水・木）から（4階東病棟）
総廻診	水15時から（カンファレンス後）

学外の教育研修施設（要相談）

大学での臨床実習期間中に他に学外施設においての研修が可能である。

学外施設は県立広島病院、呉医療センター、東広島医療センター、中国労災病院、安佐市民病院、三次中央病院、広島総合病院、尾道総合病院、中電病院などの関連病院を主とする。

学外研修を希望する場合は個別に日程を調整する。

評価

5 項目の到達目標が実習中にどの程度達成されたかを評価する。

4 週間コース

評価項目	配点
身だしなみ、振る舞い、医療面接力	20
指導医による学生の行動内容の評価	20
教授試問、教授回診での患者提示のでき具合	20
症例レポート、ポートフォリオの内容、理解力	20
分娩見学・介入計画の立案（2件）	20

2 週間コース

評価項目	配点
身だしなみ、振る舞い、医療面接力	20
指導医による学生の行動内容の評価	20
教授試問、教授回診での患者提示のでき具合	20
症例レポート、ポートフォリオの内容、理解力	20
分娩見学・介入計画の立案（1件）	20